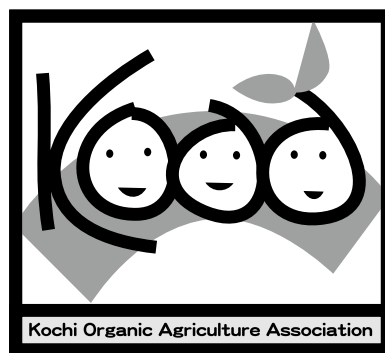


いろいろゆうぎ



2011年冬・第14号

福島原発事故は収束宣言が出され、マスメディアからの情報も少なくなってきました。福島原発事故からのちと食を守るネットワーク（準）が「放射能放散公害事件」の視点から討議され、出された「品川宣言」をご紹介します。伊方原発でひとたび大事故が起これば即、私たちの問題になります。みなさまのご賛同、ご意見をお寄せください。

* * *

「品川宣言」2011年9月18日

私たちは、福島第一原子力発電所の事故後、国民生活への重大な影響を憂慮し、事故の終息を見守ってきました。

また、その工程にあつて、わが国多数の一流企業である東京電力株式会社や政府に、国土や国民の命を第一義的に守ってほしいと願ってきました。

しかしながら私たちの期待は見事に裏切られ今日に至っています。

2011年9月18日、全国の市民・農家・水産加工・食品団体員など有志が東京都品川区南品川5-3-20、品川第二地域センター会議室に集り、今回の事故とこれまでの経過について討議しました。

そして、私たちは、今回の事故並び

にその経過が、「放射能放散公害事件」であることを再確認しました。そこには、明らかな加害者と、放射能にさらされている被害者が存在しています。

しかし、事件発生より半年が経過してもなおその起因者である東京電力に、その責任を果たそうとする姿勢は見られません。

また、政府は一体だれのためにあるのか――。
ここに集った私たちは、大きな憤怒を持って次の結論に達したことを宣言します。

1. 避難対象地区について

まず、2011年3月11日発生の福島第一原子力発電所事件から半年を経過した今なお、放射線に汚染された環境下に人々が放置されていることに対して断固として抗議する。

私たちは、「放射線管理区域」(1.3ミリシーベルト/3ヶ月)レベルの環境下にさらされているすべての住民を、直ちに安全な地区に避難させることを、放射能を放散した東京電力と政府に要求する。

なお、ここでは避難させる義務は上記「放射線管理区域」レベルとするが、市民の側の、避難の権利の基準は、「一般公衆の線量限度」(ICRP・国際

放射線防護委員会)基準の1ミリシーベルト/年以上であり、この環境下からの自主避難の権利は認められなければならない。

2. 棄民的措置による健康被害の責任について

ゆえに、1ミリシーベルト/年以上の環境下に無作為に人々を留め置くことは、人身に危害を加える傷害行為、ないしは殺人予備行為にも他ならない。

上記環境下にたとえ一時期であったとしても置かれた福島県民をはじめとする人々に今後発生する健康被害については、東京電力並びに政府の責任であることを宣言する。

3. 避難に関する費用について

避難に関する一切の費用は東京電力が負担すること、すでに自主避難している場合にも請求権は認められること、その上で、避難先は避難すべき当事者の希望に添うこと、以上の権利を担保する。

また、従来からの地域コミュニティの避難先での維持など、具体的な避難誘導等については、国・地方公共団体が参加する公共事業体によって、避難者の立場にたつて進められる

べきであり、かりにも私企業を参入させ、利益優先・経費出し惜しみを許してはならない。

4. 「生業」(なりわい)を破壊された住民被害について

特に一次産業者は、その生業が農地や漁場と不可分であり、農業者にあつては農地や山林、水利権等、漁業者にあつては漁港や漁場、漁業権等の確保が可能であることを前提に、北海道、中・西日本などの汚染されていない土地を避難移住先に選定する必要がある。

その上で各避難者の生活再建に関する一切の費用も東京電力により補償されなければならない。

5. 自営業者に対する賠償について

一大食料生産地帯を放射能で汚染した東京電力の責任は重大である。

避難する自営業者の一切の避難移転費用と、生産休止期間と生産が再開したのちも事業が福島第一原子力発電所事件以前の所得水準に戻るまでの期間の損害を賠償しなければならない。

それは、例えば、酪農・畜産業及び水産養殖業においては、生産、出荷が可能になるまでの家畜の飼育経費等、魚介類や海藻の養殖経費等、また、そ

の間の生産者の生活費用等の一切の費用のことをいう。

6. すべての賠償・補償について

東京電力が負うべき移転費用、生活再建費用、損害賠償費等必要な支払いについては、速やかに行わなければならない。支払いについては、定める支払義務発生日を越えた日数に応じて延滞遅延金年10% (電気料金遅延金と同率) を上乘せなければならないのは当然のことである。

7. 高汚染地区の農地回復に従事しようとする者について

放射線リスクが適度に低いと考えられる年齢の農業者が、高汚染地区に立ち戻つて農地回復を希望する場合、当該の地は相当程度の人口密度の希薄化が考えられ、また、放射線曝露を最小限度にとどめるために、清浄な飲食物の配給とその他の行政・医療サービスの供給は続けられなければならない。

放射性物質除去のための菜種・アカザ・牧草類などを含む生産物は、当面低レベル放射性物質であるから、東京電力によって適正な生産者価格で買い取り補償されなければならない。

東京電力は補償買い取りした生産物を厳重管理し、市場に環流させてはならない。

8. 食品暫定基準値について

現行の食品「暫定基準値」はなんら正当な根拠を持たない。私たちは決して容認できるものではない。

暫定基準値は当該汚染地区からの避難が完了するまでの間、飢え死にすることを防ぐための緊急避難的な数値である。当該汚染地区外にまで適用することや、既に半年を経過した今も「暫定」期間とすることには無理がある。いたずらに引き延ばすことは許されない。

また、この緩い暫定基準値こそが、汚染農水産物やその加工食品を生産し、拡散させる原因となっており、直ちに暫定基準値は撤廃されなければならない。

私たちは、すべての国民に、暫定基準値を適用しようとするのが無意味・無効であることを宣言する。

9. 外部被ばくと内部被ばくの積算について

私たちが受ける放射線量は体内に摂取される飲料・食品・呼吸吸入されるダストなど、いわゆる内部被ばくと外部被ばく線量の総量と理解されるべきである。

食品などの暫定基準値は年間摂取量を計算して、年1ミリシーベルトから

空間放射線量を減じた数値以内に設定されるのは自明のことである。

現行の500ベクレル/kgと200ベクレル/kgの暫定基準では、年間17ミリシーベルトと22ミリシーベルトに積算されるとの見解があり、撤回されたはずの20ミリシーベルト/年基準に対応するものであり、認められない。(例えばドイツ放射線防護協会による「日本への提言」では、0.3ミリシーベルト/年を基準に食品を「大人8ベクレル/kg、子ども4ベクレル/kg」としている。)

10. 汚染された農水産物について

少しでも放射能に汚染された農水産物を「放射能汚染農水産物」と呼び、「低レベル放射性廃棄物」のひとつとする。

低レベル放射性廃棄物は、発生原因者東京電力によって回収され再度の環境汚染を防止するため密閉処理・管理されなければならない。その場合、東京電力は、放射能汚染農水産物を適正な生産者価格で買い取り補償しなければならない。

11. 他者に汚染を拡大しない義務と責任について

線量の大小にかかわらず放射能汚染農水産物が生じたとき、あるいは放射

能汚染農水産物が生じるおそれのあるとき、生産者は自らの判断で生産を中止する「食べ物」生産者としての責任を持つ。

福島第一原子力発電所から放射された放射性物質による汚染被害物のすべて、および、汚染が予測されての生産休止による操業損害は、東京電力が損害賠償しなければならぬ。

12. 販売供給者の義務と責任について

福島第一原子力発電所から放射された放射性物質による汚染農水産物とその加工食品は、販売供給されてはならない。

その線量の大小にかかわらず、低レベル放射性廃棄物は、市民に対する加害物質であり、その供給は、人身に危害を加える傷害行為、ないしは殺人予備行為に他ならない。

13. 汚染された農水産物や瓦礫の拡散について

農水産物に限らず、放射能汚染された瓦礫・土壌などの移動は汚染の拡散であり、一切認められない。

すでに福島第一原子力発電所敷地外へ放散された放射性物質及びその付着物は発生原因事業者東京電力の責任で回収されるべきである。

上記瓦礫をはじめ、表土や上下水汚

泥、焼却灰・スラッジ・腐葉土・堆肥等は、放射性廃棄物として回収され、発生地である福島第一原子力発電所敷地内に戻され、再度の汚染原因にならないように密閉処理・管理されなければならない。

14. 放射能汚染農水産物の産地偽装や希釈的な拡散について

さらに、市民の正常な判断を妨げる産地ロンダリングは禁止されなければならない。

東日本の産地県の生乳を、地域を越えて運搬し、遠方府県乳業工場で産地県を明かさずに製造販売していることが、名神自動車道滋賀県内瀬田での生乳タンクローリー車横転事故ではからずも発覚した。

また、東北地方太平洋沿岸漁場で捕獲された水産物を静岡県や三重県などの遠隔県漁港で水揚げする、という例もある。

正当性のない暫定基準値であればこそ、放射能に汚染された食品を家族に食べさせたくない、食べたくなないとする市民が、食品危険度の判断をするために、産地は正確に表示されなければならない。

15. 汚染数値の公開について

当然、現行「暫定基準値」以下の汚染数値も、1桁ベクレルまですべて公表されなければならない。

地方自治体などの公共団体による測定は、ゲルマニウム半導体検出機などを使用し、精緻な検出レベルを保証しなければならぬ。

また、その検出の必要性が今回の福島第一原発の放射性物質に起因する場合、その検出検査料金は東京電力に請求されるべきであり、市民・生産者・取扱販売者に負担させてはならない。

以上のことを私たちは真剣に討議し、ここに宣言することにしました。これらは決して難しいことではなく、子どもや子どもを守りたい大人には、とても明快なことです。

今回の福島原発事故の問題は、本当は意外にシンプルです。永遠に未熟な技術を振り回し、多くの人々を傷つけ、生命の危険にまで追いやっています。まだそれは目に見える形では現れていないかも知れませんが、やがては誰もが知ることになるでしょう。

原子力に関わる人達が小賢しい理屈で問題を複雑にすり替え、当然にとらなければならない責任を有耶無耶にしようとしているだけなのです。

私たちは、今もつとも危険なところにいる人々に、「早く逃げろ！」と大声で叫びたいのです。

その危険にさらされている人々を一番に助けなければならない者たちが、他人事のように傍観していることが許せないのです。

そして、さらに私たち自身もまた、放射性物質で汚染させた農水産物を生産してしまったり、それを他人様に間違つて食べさせてしまったりすることを恐れているのです。

そのような意味で、福島第一原発から放射された放射性物質への重い不安感、人々すべてに分かちあわれてしまっています。

さて、私たちはこの宣言を踏まえて、「3. 11福島原発放射能放散事件」から人々の「いのち」を守る「福島原発事故からいのちと食を守るネットワーク」を結成し、人々の「いのち」と「たべもの」の安全を守るためのあらゆる提言、運動を行うことを確認しました。

すべての市民の皆様、私たちの「ネットワーク」への連帯とご賛同をお願いいたします。

以上

放射能汚染・海外の反応

未曾有の放射能汚染にさらされながら、その事実がほとんど明るみにされない日本。海外ではこんな声明が出されていることをご認識ください。以下、ドイツ放射線防護協会の報道発表を掲載します。

報道発表

放射線防護協会…

放射線防護の原則は福島原子炉災害の後も軽んじられてはならない。

放射線防護協会は問う…

住民は、核エネルギー利用の結果として出る死者や病人を何人容認するつもりだろうか？

放射線防護においては、特定の措置を取らないで済ませたいが為に、あらゆる種類の汚染された食品やゴミを汚染されていないものと混ぜて「安全である」として通用させることを禁止する国際的な合意があります。日本の官庁は現時点において、食品の範囲、また地震と津波の被災地から出た瓦礫の範囲で、この希釈禁止に抵触していません。ドイツ放射線防護協会は、この「希釈政策」を停止するよう、緊急に勧告するものであります。さもなければ、

日本の全国民が、忍び足で迫ってくる汚染という形で、第二のフクシマに晒されることになるでしょう。空間的に明確な境界を定め、きちんと作られ監視された廃棄物置き場を作らないと、防護は難しくなります。「混ぜて薄めた」食品についてもそれは同じことが言えます。現在そのまま汚染された物や食品を取り扱っていくと、国民の健康に害を及ぼすことになるでしょう。

焼却や灰の海岸の埋め立てなどへの利用により、汚染物は日本の全県へ流通され始めていますが、放射線防護の観点からすれば、これは惨禍であります。そうすることにより、ごみ焼却施設の煙突から、あるいは海に廃棄された汚染灰から、材料に含まれている放射性核種は順当に環境へと運び出されてしまいます。放射線防護協会は、この点に関する計画を中止することを、早急に勧告します。

チェルノブイリ以降、ドイツでは数々の調査によって、胎児や幼児が放射線に対し、これまで考えられていた以上に大変感受性が強い、という事が示されています。チェルノブイリ以降のヨーロッパでは、乳児死亡率、先天的奇形、女兒の死産の領域で大変重要

な変化が起っています。つまり、低〜中程度の線量で何十万人もの幼児が影響を受けているのです。ドイツの原子力発電所周辺に住む幼児たちの癌・白血病の検査も、ほんの少しの線量増加でさえ、子供たちの健康にダメージを与えることを強く示しています。放射線防護協会は、少なくとも汚染地の妊婦や子供の居る家庭を、これまでの場合よりもっと遠くへ移住できるよう支援することを、早急に勧告します。協会としては、子供たちに20ミリシーベルト（年間）までの線量を認めることを、悲劇的で間違った決定だと見ています。

日本で現在通用している食物中の放射線核種の暫定規制値は、商業や農業の損失を保護するものですが、しかし国民の放射線被害については保護してくれないのです。この閾値は、著しい数の死に至る癌疾患、あるいは死には至らない癌疾患が増え、その他にも多種多様な健康被害が起るのを日本政府が受容していることを示している、と放射線防護協会は声を大にして指摘したい。いかなる政府もこのようなやり方で、国民の健康を踏みにじってはならないのです。

放射線防護協会は、核エネルギー使用の利点と引き換えに、社会がどれほどの数の死者や病人を許容するつもりがあるのかと問うことについて、全国民の間で公の議論が不可欠と考えています。この議論は、日本だけに必要なものではありません。それ以外の原子力ロビーと政治の世界でも、その議論はこれまで阻止されてきたのです。

放射線防護協会は、日本の市民の皆さんに懇望します。できる限りの専門知識を早急に身につけてください。皆さん、どうか食品の暫定規制値を大幅に下げよう、そして食品検査を徹底させるように要求してください。既に日本の多くの都市に組織されている独立した検査機関を支援してください。

放射線防護協会は、日本の科学者たちに懇望します。どうか日本の市民の側に立つてください。そして、放射線とは何か、それがどんなダメージを引き起こすかを、市民の皆さんに説明してください。

放射線防護協会 会長

Dr.セバステイアン・プフルークバイル
2011年11月27日、ベルリンにて

ファーマーズ マーケットの声

ジョン ムーア

冬の北風が吹き始めると、ほとんどのファーマーズマーケットの人たちは、体を暖かく覆い始めます。冷たい風の中で、6時間立ちっぱなしは、とてもハードな仕事です。特に常連のお客さんが来てくれるのですが、暗くなるのがとても早くなってきました。オーガニックフードを食べたいと言う人たちは地元にあるコンビニエンスストアに行くのではなく、わざわざ遠くから時間をかけて来てくれます。それは雨の降った日であってもです。



私達は100%オーガニッククッキー、フムス、本物のオーガニックライ麦ブレッド、はちみつと、素晴らしいケーキを販売しました。全ての素材は100%オーガニックで、卵、バター、小麦粉、砂糖、チョコレートも南アメリカからです。季節のオーガニック野菜のみ限定の量で販売しました。

値段はシンプルです。全て500円。1コイン、1価格。クッキー、パン、野菜の量、大きさを調整しました。材料を集めるのは大変時間がかかりました。自分たちの素材の育てられた農園を訪ね、土、種、デリバリープロセスを調べました。時間はかかりましたが市場でベストのオーガニック製品を取得する為に何度も取引先を変えていきました。

いつも焼きたての物を用意しました。毎週完売。少なくとも35%のリピーターを持っていました。国連大学の前にある私達の小さなスタンドは、東京ですぐに面白い人たちの集まる場所となりました。食品やオーガニックのありとあらゆるディスプレイがなされました。今でも週に2回のオーガニックセミナー、ワークショップを開催しています。お客様の教育。それは効果的でした。私達は十分な量のクッキーが作れませんでした。私達はクッキー



キーが完売した後に看板を取り除いてオーガニックについて話し、生徒となる可能性のある人たちにパンフレットを配りました。

現在でもワークショップとセミナーを続けています。今は日本中でしています。

若いお母さん

主力の顧客は若いお母さん達です。彼女達は子供達にオーガニックの食べ物を食べさせたいが、体に良いおいしいお菓子も食べさせたい。だから私達の100%オーガニッククッキーはパーフェクトでした。甘過ぎない沖繩の砂糖、ちようど子供の拳ほどのサイズで100円。若いお母さんたちからは、卵、ナッツ、小麦、チョコレートにもアレルギーの話がありました。だから時々リクエストによって異なるバージョンのクッキー等を作りました。リピートのお客さんはファーマーズマーケット

の販売の主力のお客様です。リピーターを維持するのは新規のお客さんをつくるより10倍以上エネルギーがいります。若いお母さん達は食材に化学肥料は何を使ったか訊ねます。食べ物育てる為に化学薬品を使っていない事がオーガニックの最初のステップだと答えます。最近の農家さんは食べ物育てるときにバクテリアを使います。

彼らがバクテリアを入れる事で土、食物連鎖、人間の体、ゴミの中で、バクテリアが育つ事を誰も知らない。更に悪い事に誰も気にしていない。40年前に農家さんが安い化学肥料を販売していた時と同じです。私達が今日持っている問題を見て下さい。

しかし、化学物質や微生物の農業は、オーガニックの農法です。それは生命の全てに繋がります。あなたはお金についてどう思いますか。あなたの友達、この惑星に生き方について、どのように私達は次の世代に注意を払うことができるでしょうか。これがオーガニックです。もしあなたが食べ物だけ考える場合、あなたは自分の事だけを考えている。思想のその利己的な考えは化学農業と同じです。自分だけは一番大きい、良いもので別の人は関係ない。

サンプルの畝

一度おいしいクッキーをひとかけら食べたなら、一枚食べずにはいられなくなると思いますが。だから私たちはサンプルを正面にいつも用意しました。

クッキーは食べたくないですか？

チョコチップ、そばマドレーヌ、ゴマ、ジンジャーでどれが好きですか？ お客様はどれにしようか立ち止まります。2、3種類食べてみると彼らは味わったときほとんどが「おいしい」と喜びます。そこで「なぜなら100%オーガニックだから」と答えます。砂糖、卵、小麦、バター、全て安全でおいしい。常に少なくとも1パッケージ買って下さいます。通常2パッケージ。その後、

手作りのプロセスについて会話。「生の生姜は味の違いになります。オーブンの中でクッキーをターンさせて・・・」卵を産む鶏の食べ物について話したりします。それを聞く事によって味も変わってきます。卵が生まれてからどれくらいたっているか、どんな蜂蜜をマドレーヌに使っているか、どうして日本の蜂蜜の味は弱いか？どのような塩が使われているか。

私達は土壌についてもはなし、在来種の種を使い、F1の種を使わない事を説明し、子供達や、東京の女性達の食品アレルギーの増加について話しました。

原因として、水、空気、食品汚染、自分の食糧を簡単につくる方法、健康にダイエットする簡単な方法。水道水より500倍も高いボトルの水を買わない事。東京の水道水はきれいでした。



オーガニクスワークショップの85%の生徒さんは30から40歳代の女性でした。安全でクリーンな食物を心配していません。もし1日に一つでも安全で新鮮な食べ物が家の中で作れたら、随分気分が楽になるだろうと、私は思いました。A4サイズのタッパーや生ゴミや葉から自分で土を作り出す。在来種の種だけです。病気や虫にも強いので次の世代に強いDNAを残す事が出来ます。ちょうどいい量生き

ている水、月のサイクルで種をまきます。だから自然のリズムに逆らわない。コンパニオンプランツのほとんどは、あなたと土壌中のバクテリアの隣にある植物に恩恵をもたらし、それらの不要な虫を追い払ってくれます。今では何千もの若い女性が東京の自分の部屋やバルコニーで自分の野菜やハーブを育てています。

彼らは満月の日に在来種の種の交換会で友達や新しく出会った友達と一緒に食べ物について話し、身体、魂のケアについて語り合います。オーガニクス、この地球を次世代の為に少しでも良くする方法についても語り合います。これらの若い女性はおいしいクッキーとともにファーマーズマーケットに戻って来ます。

年配の女性

青山はたくさんのお金持ちの年配女性がショッピングに訪れます。

彼らは新しいデザイナーの服を披露するファッショナブルな場所としてファーマーズマーケットとに群がります。私は彼らと冗談を楽しみました。彼らは私達のクッキーに不満を言いません。

「あなたの体は安い食べ物を食べて美しく飾り付けているのですか？どんなに高価な服を買う余裕があっても、安い食べ物を買って節約するのですか？」

時には笑い、時には笑えない。彼らは本物のお客様ではないです。

彼らへの私の仕事は、もう一度彼らの人生について考えさせる事です。オーガニックについてはその後です。

ある年配の女性は毎週日曜日にジョムニア・オーガニック・クッキーを1週間分買いに遠くからきます。彼女はアレルギーを持っていますが、このクッキーだけは食べる事ができます。彼女はこれが本物である事を知っています。彼女の体が彼女に伝えるのです。彼女はお店でこれまで食品と彼女の問題について話しました。彼女は本当に良いお菓子、パンが早く来てほしいと願っていました。私はいつも感謝の思いで余分なバックを差し出しました。彼女はいつも戻って来てくれました。



たくさんのお金の女性、エクセサイズをする女性、犬を飼う女性達

私達は、ヒット商品を作りました。イノシシの肉と骨の入ったライ麦のドッグ・クッキーです。犬はそのワールドなテイストが大好きで、飼い主は犬の為にたくさんのお金を費やしました。彼らは値段を気にしません。より良いものをあたえたいので、洋服を着せるよりよっぽど価値があります。健康な歯や骨の為に。犬達は飼い主より多分健康的なクッキーを食べているでしょう。すぐに顧客になってくれました。

男性

若い男性はクッキーを買いました。女性達よりは少ないけれども本物を望みました。毎週いくつかのパックを買ってくれました。そして再び戻ります。オーガニックについて厳しい質問に答えられるでしょうか？バターは本当にオーガニックですか？牧場は牛にどんな食べ物をたべさせているのでしょうか？水ですらどのようなものをあげているのでしょうか？彼らは恥ずかしくなります。彼らは食べたいけれどサンプルから遠ざかり、奥さんを買うかどうかの決断をゆだねます。そして家に帰り食べてみて、奥さんに来週

も行って買ってくるように頼みます。

東京アーバン

コンパニオンファーム

このコンパニオンファームは東京の恵比寿にあります。

私達は、クローバー、大根、そば、カブ、トマト、レタス。ハーブ、ブドウ。キウイ、オリーブ、フレンドリーな人たち、全て良いコンパニオンです。まずは土を耕さない。バクテリアは最初の5センチメートルで暮らしています。ですから、土を掘り、裏返してしまおうとバクテリアを深くに押し込んでしまい、ほとんどが死んでしまいます。バクテリアがいなくなり、土壌はバク



テリアを作る為にゼロからスタートしオンのシードミックスを作り、一握りの豆、クローバー、そば、大根、カブ、ライ麦、マリーゴールドを土壌に蒔きます。軽く水をあげ、放っておきます。

干渉しないで下さい。人間は干渉するのが大好きです。何本かのキリンビールを飲んで待っていて下さい。1週間後にそばとクローバーは発芽します。それは、彼らが土壌中に10センチメートル深く根をおろした事を意味します。それらは、土壌に空気と水を入れ、成長の為に適切なバクテリアの種類を集めています。

最初の1週間で豆の根の成長し、次の1週間で自分自身を補う為に根毛に硝酸塩を蓄えます。豆は土の中に栄養を蓄えます。種の為に栄養を蓄えます。種を作るまえにカットし、土のなかに栄養が残っているのです、その野菜達が栄養を吸収します。豆はそのプロセスをずっとつづけます。クローバーは豆科です。早く隣の植物を成長させ、栄養を与えます。マリーゴールドの根っこはネマトードをだします。ティオピーンと呼びます。これが植物の根っこを食べるバクテリアを殺します。マリーゴールドはまた葉っぱからの香りにより、たくさんのお虫達から遠ざけてくれます。ですのほとんど

全ての植物にコンパニオンとしてマリーゴールドを植える事が出来ます。だから、アーバンコンパニオンファームで私達は、健全な土壌、健康的な空気、良い植物の食べ物とコミュニティBBOをハードワークする事なく得る事が出来るのです。



John Moore

社会企業家。コミュニケーションディレクター。英国公認教師、オーガニックフード・ガーデニング教師。元パタゴニア日本支社長。
英国シェフィールド大学教育学部卒業後、教師を経て、電通に入社。コピーライターとして活躍する。その後、パタゴニア日本支社長に就任し、現在はJohn Moore Associates 代表をつとめる。

オーガニックフェスタ 2012 in 四国

日時 2012年2月19日(日)
10時～17時
場所 小松島市 ミリカホール
徳島県小松島市小松島町字新港9-10

四国の有機農業関係者が集まって、左記のとおり開催されます。現在、企画／準備中の為、詳細は未定ですが、楽しいものになりそうです。

～第一部～
葉物野菜の試食／品評会

～第二部～ 講演／報告

有機農業を核としたしたまちづくり

霜里農場 金子美登氏

有機農業の可能性

ジャパンバイオファーム

小祝政明氏

有機野菜の優位性

東京デリカフーズ 武井安由知氏

小松島の挑戦

小松島生物多様性農業推進協議会

石原正裕氏

主催 オーガニックフェスタ

2012 in 四国 実行委員会

問い合わせ先

コープ自然派こうち

090-1324-6887 (東條)

第6回通常総会 開催のお知らせ

NPO法人高知県有機農業研究会は第6回通常総会を左記のとおり開催いたします。

議決権を有するのは運営委員の方ですが、賛助会員、購読会員、その他有機農業に関心のある方のご出席を歓迎いたします。

日時 2012年2月12日(日)

午後1時半～

場所 高知市土佐山菖蒲656

菖蒲公民館

正連寺分岐より車で15分

運営会員の皆様には、1月中旬に案内状を差し上げます。ご出欠のご連絡をお願いいたします。

なお、議事終了後、研修、交流の予定ですが詳細は未定です。

◇ ◇ ◇

理事会報告

定例理事会

日時 11月14日(月) 13時半～

場所 高知市土佐山菖蒲 和庵(事務局)

協議事項

1 ホームページ最終確認の件
有機農産物フェア開催報告

10月30日(日)

よさこいふるさと市場

次回は12月25日(日)に開催

2 研修会実施報告

10月7日(金) 13時～16時

四万十中央公民館 圃場見学

参加者 21名

3 いろいろゆうぎ14号発行の件

4 農商工連携事業について

5 共同事業は見送りとなった。

6 その他

通常総会の日程について

会計事務について

◇ ◇ ◇

編集後記

福島原発事故「収束宣言」が野田首相より発表されました……。今号の品川宣言は長い引用になりましたが、一度原発事故がおこれば、これだけの問題をはらんでいるのだということ網羅しています。外国でも使われていた言葉「テイケイ」という有機農産物の流通、人と人との「つながり」が断ち切られたという現実。東日本の特に有機の生産者の思いはいかばかりかと。2012年は新しい展望がひらけますように。(東條)

特定非営利活動法人

高知県有機農業研究会 広報紙

いろいろゆうぎ 第14号

2011年12月25日発行

〒781-3214

高知市土佐山菖蒲651

090-1008-4717

事務局長 山本優作

当紙に関して、また、入会の申込み共に上記までお問い合わせください。

当会の事業は、会員の皆様にご協力頂いています会費により運営されています。入会をご希望の方、会費が未納となっている方、下記口座への納入をお願いいたします。

郵便振替 01640-6-56351

加入者 特定非営利活動法人
高知県有機農業研究会

個人 運営会員 5000円
年会費 賛助会員 3000円
購読会員 1000円

団体 運営会員 10000円
年会費 賛助会員 5000円